

第10回北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会 開催報告

1. 日時

2022年11月9日（水）14:00～16:45

2. 場所

倶知安町役場3階 第一委員会室



3. 報告事項

（1）秋田駅視察報告

（佐藤委員）

- ・秋田駅の視察結果について報告。

4. 議事

（1）西口広場計画について… 資料1、2

（倶知安町 西口主幹）

- ・資料1、資料2について説明。

（斎藤委員）

- ・年間利用料金は、稼働率を何%として算出しているのか。
 - ・B案における整備費の差は、どのあたりで出ているのか。
- （ドーコン 朝倉）
- ・稼働率については、飯山駅の事例に基づき80%として計算している。
 - ・整備費については、基本案であるB①案では建設業者へヒアリングを行い、15億円と算出している。この15億円をベースに、B②案では20%増しで18億円、B③案では40%増しで21億円として算出している。これは厳密な金額ではなく、弊社建築担当の経験則によりざっくり算出しているものになる。B②案における全面緑化案についても21億円としている。C案の14億円については、ある程度正確な金額である。

（斎藤委員）

- ・稼働率の算出方法について了解した。

- ・B①案、B②案では、屋根の上に人が乗るということで、構造が大分異なるのではないかと想定している。この時の差は考慮されているのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・考慮されているが、人の荷重はそれほどでもないという面もある。屋根の形状を構成する構造材が複雑となるため、このような比率となっている。

(木村委員長)

- ・屋上緑化について、プランターベースの施工がなされるのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・このB②案については、ある程度しっかりとしたものを全面的に施工するイメージになる。

(本田副委員長)

- ・改めて確認したいのだが、地上からホーム階床面までの高さは何mになるのか。

(鉄道・運輸機構 古屋担当係長)

- ・ホームの高さは10mになる。

(本田副委員長)

- ・そうすると7ページB②案において、ホームに立つ人の目線は11.6mくらいになると思われる。ホームからの眺望を遮るのはまずいという論議があった中で、この3つの案で高さに差があるのが気になった。

(木村委員長)

- ・それぞれの案では、窓の高さも異なるのか。

(鉄道・運輸機構 古屋担当係長)

- ・両側全面ガラス張りになるかどうかも含め、これから検討することになる。

(本田副委員長)

- ・2ページ、C案だった場合の屋根の高さは何mになるのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・5.5～6mくらいになると思われる。

(本田副委員長)

- ・目線を配慮した場合、B①案になるのではないかと考えている。B②、B③案は雪の扱いが大変。B①案であれば、雪が1m程度積もっても眺望できるのではないかと思う。

(木村委員長)

- ・屋根の除雪はどのようなになるのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・基本的には、堆雪させることを想定している。

(本田副委員長)

- ・西風が吹くと、屋根に吹き溜まりができるのではないかと懸念している。

(吉田委員)

- ・飯山駅の収支も、イニシャルコストを除き赤字になるのかが気になる。

- ・月極などを考慮すると収支はどのように変わるのか。

(本田副委員長)

- ・今の段階ではこのような条件のシミュレーションになるのだと思う。のちに場所代や月極などを考慮することになると思われるが、今はそこまで考えなくても良い。

(佐藤委員)

- ・収容台数 200 台、稼働率 80%、160 台出入りするというシミュレーションが提示されているが、収容台数 160 台、稼働率 100%という条件ではどうか。収容台数を減らし、東口の民間の駐車場などを利用できるのではないかと想像している。まだ収容台数を検討する時間はあるのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・方針として、民間の駐車場を活用する案はあり得る。上越妙高駅でも、民間の駐車場を活用されている。

(柏谷委員)

- ・前回までの議論では、収容台数 200 台で検討していくという流れであったと思う。

(木村委員長)

- ・俱知安町の事情が分からない中でのシミュレーションなので、収容台数について答えを出すのは難しいと思う。その中で、200 台が良いのではないかという議論を前回までにしている。

(本田副委員長)

- ・飯山駅を中心とした半径 35km 圏内の人口はどれくらいなのか。例えば、俱知安町と羊蹄山麓を含めた人口は 4 万～5 万人であるが、飯山駅周辺に住んでいる人達の需要が気になる。

(吉田委員)

- ・飯山駅では、周辺のスキー場の数も考慮されていると思う。

(木村委員長)

- ・周辺のスキー場は 22 箇所ある。恐らく人口規模は同じくらいではないかと思う。飯山市が 2 万人、周辺の人口を含めると 4 万人くらいではないか。

(俱知安町 西口主幹)

- ・昨年までに積み重ねた議論も踏まえた収容台数である。300 台という議論もあったが、最低でも 200 台を整備するということで、収容台数を 200 台としている。
- ・将来拡張の余地があるのは、B①案になる。

(柏谷委員)

- ・飯山駅の駐車料金は時間単価なのか。

(俱知安町 西口主幹)

- ・平面駐車場では、1 時間以内無料、1 時間～4 時間 100 円、4 時間～8 時間 200 円、8 時間～12 時間 300 円、12 時間～24 時間 400 円、24 時間～48 時間 600 円、48 時間以上は、24 時間まで毎に 600 円を加算、と段階を踏んでいる。立体駐車場では、1 時間～4 時間 200 円、以降は平面駐車場と同様に段階を踏んで増額している。

(木村委員長)

- ・ちなみに、飯山駅には民間駐車場は無い。
- ・俱知安町の通勤圏ということで、札幌市へ行く人がどれくらい利用するのかにもよると思

う。

(柏谷委員)

- ・朝のダイヤ的に、倶知安町から札幌市に通勤することは無いと思う。

(J R 北海道 広田主査)

- ・ダイヤ決定は開業直前となるのであくまで仮の話となるが、車両基地が新函館北斗駅近くにあるため、新函館北斗発の列車が設定されれば通勤利用が可能な時間帯に倶知安に停車することも考えられる。

(木村委員長)

- ・色々な懸念はあるが、収容台数を 200 台として議論を進める。
- ・今までの議論では、駐車場の外観として真四角の建物は好ましくないということで、今回提示されたようなデザインの話になった。今回は、B①案、B②案でどちらが良いのか、どのような使い方をするのかについて議論していただきたい。

(吉田委員)

- ・やはり B②案を推したい。費用が高額になるが、コンサートなど色々な仕掛けができると思う。屋上緑化をしたとしても、旭ヶ丘側から見た際に緑が多く見栄えが良い。B①案で進めるくらいならば、B②案で人が集められる作りこみをした方が良いと考えている。

(峠ヶ委員)

- ・B②案は駐車場以外の用途として、花火など色々な用途へ広がっていくイメージがある。

(本田副委員長)

- ・B①案と B②案で高さが違うのはなぜか。

(ドーコン 朝倉)

- ・B②案では段々の構造にするために一段高くなっている。

(木村委員長)

- ・ホーム高を最も高い位置とすれば良いのではないか。

(柏谷委員)

- ・最上段は段にせず、B①案のように広くとり、手前の部分を段々にしてはどうか。B①案と B②案を統合したようなイメージ。

(吉田委員)

- ・積雪荷重に耐えられるとのことなので、冬場は屋上をすべり台にしても面白いかもしれない。

(木村委員長)

- ・B③案について意見はあるか。

(斎藤委員)

- ・隣の体育館と形状が揃い美しい形だと思うが、駐車場整備費に加え収入も考慮すると、収支計の金額はもっと落ちこむような気がしている。絵としては捨てがたいが、実現するのはかなり厳しいと感じている。

(木村委員長)

- ・これまでの議論を踏まえると、B①案、B②案のイメージになると思う。この議論を基に、

次のシミュレーションをしていくことになると思う。議論が出尽くせばそれでいいと思っている。

(佐藤委員)

- ・B②案が良いと思う。最終的にデザイン会社が入ると、B③案のような傾斜屋根の要素も付け加えるなど色々なことができる。2階の駐車場部分に雪だるま型のデザインを施すなども、後々計画できると思う。

(木村委員長)

- ・斎藤委員は、C案以外であればどの案が良いか。

(斎藤委員)

- ・B②案が良いと思う。

(本田副委員長)

- ・高さが9mくらいに収まるのであれば、B②案が良いと思う。
- ・東側にもテラスが造られるが、東側のテラスは陰になる。1日長く使うならば、西日の当たる温かい西側の方が使い勝手が良い。

(吉田委員)

- ・花火大会で観覧席を売れば、収入源になるかもしれない。

(俱知安町 西口主幹)

- ・参考までに皆様にお聞きしたいことがある。現在の議論では立体駐車場を抜き出しているが、隣接するくとさんパークはこの形が良いのか、改善したほうが良いのか。ご意見があればお伺いしたい。

(吉田委員)

- ・くとさんパークのサイズはどのくらいなのか。

(柏谷委員)

- ・生協の駐車場の幅くらいのサイズだと思う。
- ・この辺りの価値を上げるならば、2階建ての集合住宅を建設してはどうか。住民が遊ぶための公園としてくとさんパークがあると、付加価値が付くのではないかと思う。川を意識することにも繋がると思う。

(吉田委員)

- ・川の兩岸にどうしても桜の木を植えたい。

(本田副委員長)

- ・駅との連動よりも俱登山川の川岸をどう整備するかの方が、検討する優先順位が高いと思う。柏谷委員の意見のように、駐車場周辺には子育て世代向けの住宅があれば良い。最近のくとさんパークの状況を見ると、ファミリー層や高齢者が過ごしている。益々そのような需要は増えていく。

(柏谷委員)

- ・石巻市の川の使い方が綺麗。面白い空間の使い方をしている。

(俱知安町 西口主幹)

- ・旭ヶ丘の総合公園であり、都市公園の一部ということで、なかなか住宅を建てるという用

途にするのは難しい。公園機能に限定される。

(本田副委員長)

- ・10年後に向けて、土地の使い方を変えるということも考えられるかもしれない。

(吉田委員)

- ・都市公園の変更については倶知安町の都市公園法なのか。議会の承認では条例改正は出来ないのか。次回教えてほしい。

(柏谷委員)

- ・じゃが祭り初めてくとさんパークを訪れたという声を聞いている。アンケートなどは実施されていないのか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・そこまで把握していない。

(峠ヶ委員)

- ・くとさんパーク周辺には子育て世代がいて、旭ヶ丘と体育館、それぞれが単体である。くとさんパークで何かしていた人たちが旭ヶ丘へ行くとすると、上り坂であるので車が必要となる。やはりカギになるのは、川をどう渡るか。そこがしっかりと全部一つになると思う。

(吉田委員)

- ・桜を植えるなど、川岸を改修することはどれくらいハードルが高いのか。

(小樽建設管理部道路課 宮本課長)

- ・かわまちづくり事業を活用して親水空間を作ることができる。作るもののイメージがあるのであれば、担当の部署に確認することは可能。

(ドーコン 朝倉)

- ・新小樽（仮称）駅は、勝納川のかわまちづくり事業により親水空間を整備する。

(佐藤委員)

- ・町民が自由通路を通って行くことを想定し、ロータリーの脇を通るような動線も考慮していく必要がある。

(木村委員長)

- ・一体で考えていくということで、関係機関へのヒアリングなどを行っていただければと思う。

(2) 都市施設の基本構想について… 資料 2

(倶知安町 植田係長)

- ・資料 2 について説明。

(柏谷委員)

- ・何㎡が適正かはわからないが、個人的にはトイレのスペースをあまり縮めない方が良いと思う。冬のお客さんは着ぶくれするため、町内の色々な施設で狭く感じるが多々あると思う。

(斎藤委員)

- ・この駅の場合は、冬のピークの状況を考えておかなければならない。新幹線が発車する直前、かなり窮屈となり、トイレに入れずに新幹線乗り込むことになりかねないと思う。140 m²はゆとりがあって良いと思っていた。パウダールームやベビー休憩室など、かなり余裕がとれるのではないかと期待していた。この案では、お客さんの不評が多くなるのではないと思う。

(吉田委員)

- ・100 m²あれば、大分余裕ができるのではないか。

(柏谷委員)

- ・町内の集まりの話を聞くと、真っ先に「トイレに配慮していない」という声が挙がる。

(木村委員長)

- ・フィッティングルームを入れるのであれば、ある程度広さを確保しなければならない。

(佐藤委員)

- ・トイレが奥の方へ追いやられている感じがする。トイレへの案内サインを沢山設置しなければならないと思う。

- ・多目的に使えるよう 140 m²は確保して、その中でレイアウトを考えた方が良いと思う。

(ドーコン 朝倉)

- ・50 m²は、考え得る最小限の機能を備える場合の面積。多機能トイレと授乳室を設置するイメージである。

(木村委員長)

- ・100 m²であれば、フィッティングルームも設置できると思う。

- ・シャワールームまでは必要なのか。

(吉田委員)

- ・管理を考えると要らないと思う。

(佐藤委員)

- ・情報発信機能右側の、柱一列のスパンの部分をトイレ機能にしてはどうか。自由通路を通る人も利用でき、使い勝手が良いと思う。

(本田副委員長)

- ・自由通路が24時間開放するため、トイレも24時間開放するのかという論議でこの位置に配置されたと記憶している。

(木村委員長)

- ・改札を出ると賑やかな、入りたくなるような空間が広がるイメージであると思う。あまりトイレが主張するといけないのかもしれない。

(本田副委員長)

- ・情報発信機能が430 m²、物販機能が560 m²と分けられているように見えるが、一体型のイメージだと思う。「情報発信&物販機能」と、ひとつの記載にしてはどうか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・見た目は分けているが、実際には自由に配置できると解釈いただければと思う。

(木村委員長)

- ・上越妙高駅はまさに、出てすぐに観光案内所があり、物販機能や飲食スペースがある。どう洗練していくかについてはまた後程議論したい。
- ・トイレは 100 m²で考えて頂くようにするか、140 m²に戻すか。
(吉田委員)
- ・フィッティングルームは男女ともにあったほうが良い。
- ・シャワールームを設置するのであれば男女 1 箇所ずつが必要だが、管理が大変。
(木村委員長)
- ・シャワーを付けるとすれば、アクティビティセンターなどに付けることになると思う。
(吉田委員)
- ・パウダールームも必要になる。
(木村委員長)
- ・パウダールームはどのように利用されているのか。
(北海道後志総合振興局地域政策課新幹線推進室 神野主任)
- ・手を洗うついでに化粧直しをしたいという時があるが、後がつかえていると避けざるを得ない。新函館北斗駅の事例のような、これだけの広さと大きい鏡などは必要なのだろうかとも思うが、あった方が嬉しいとは感じる。
(斎藤委員)
- ・ビジネス利用よりも、スキー場へ行き、帰りの新幹線に乗る前に利用する場合を想定した方が良いと思う。
(木村委員長)
- ・ベビー休憩室はどうするか。J R 北海道で整備されるのか。
(J R 北海道 広田主査)
- ・整備新幹線事業の標準で整備されるものであれば鉄道・運輸機構に整備していただく。具体的な提案を鉄道・運輸機構から受けてないのでイメージとなるがトイレは木古内駅や奥津軽いまべつに整備されているような規模になると思う。その規模のものが 4 ページの青色の空間のどこかに整備される。改札内外どちらに設置するかは都市施設側のトイレの使い勝手をみて、今後鉄道・運輸機構と調整する。
(鉄道・運輸機構 塩川課長)
- ・ベビー休憩室は、中に小規模の台所やお湯が出るような施設を作る。新幹線を利用する方は利用できる施設になる。
(柏谷委員)
- ・最近のトイレ事情としては、多機能トイレは増えていくことになるのか。今後どのような位置付けになっていくのか。例えば、LGBT などにも対応していくのか。
(本田副委員長)
- ・多機能トイレは、恐らく車いす対応がメインで、付き添いとして複数人入るという前提でこのような広さになっていると思われる。
(木村委員長)
- ・多機能トイレを 2 つ設置するというイメージか。それとも多機能の在り方を考えるのか。

(柏谷委員)

- ・そういう意味では今の倍の面積があれば、如何様にも対応できると思う。

(木村委員長)

- ・パウダールーム、フィッティングルーム、ベビー休憩室を入れる想定で、100 m²程度で良いか。
- ・どこに配置するかはもう少し先で良いのか。基本は今の位置を広くするか、狭くするかということになると思われる。

(佐藤委員)

- ・自由通路から入り、情報発信機能の前に横に並ぶように配置してはどうか。西側なので窓から明かりがとれる。

(木村委員長)

- ・西側からトイレが見えることになるが、そこまでトイレを目立たせるべきなのか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・相対面積に変更が無ければ、今後レイアウトを検討していくこともできる。

(木村委員長)

- ・今後レイアウトを検討する際、トイレの位置も再考していただくということで、トイレの広さは100 m²程度ということで決定する。

(一同)

- ・異議なし。

(木村委員長)

- ・階段、吹き抜けについてご意見はあるか。

(柏谷委員)

- ・当初、駅だけで完結しないような機能を考えるとして、物販は必要最小限のものを置き、あまり機能は盛り込まないという話であったと思う。そうした中、2階にはテーブルスペースがあり、段々とラウンジといった言葉も出てきて、広さという議論にもなっている。どちらを求めるかということもあると思う。そもそも、情報発信機能でお土産などを売るため、この広さであったと思う。物販機能は、テーブルを置いて一時的に販売するようなスペース。このような空間の使い方という話であったと思う、だんだん機能が増えてくると、違う雰囲気になる。個人的には吹き抜けはあった方が良いと思うが、どのような空間の使い方をイメージするかにより、見方が変わると思う。

(本田副委員長)

- ・機能については、私はずっと最低限のイメージをしており、どちらかというと、1階と2階の人の動線を重視している。階段の位置について意見してきたが、吹き抜けはどちらでもいい。飯山駅とは環境が違い、倶知安駅は羊蹄山へのランドスケープがあるため、あまり吹き抜けには固執していない。2階への行きやすさと、カフェ機能があるなかで階段の位置をどうするか、スペース的に支障があるならば吹き抜けはやめる、という優先順位を持っている。

(佐藤委員)

- ・吹き抜け部分に階段を持ってくるかどうか、今回の案ではその部分が待合機能になっている

が、それは新幹線駅部分にできると思っている。2階は一時滞在機能、飲食機能と二手に分かれてしまうが、その方が使い勝手が良いのではないか。そうすると情報発信機能をもっと有効に使える。2階に上がる動線についても、待合機能が正面にあり、階段がある方が2階に誘導しやすい気がする。

- ・2階右の一時滞在機能の奥に階段があるが、エレベーターと離れている。これは不便だと思う。近づけて、1つに収まるようにはしてもらえないか。

(木村委員長)

- ・先程秋田駅の事例を拝見したが、待合機能、物販、観光案内の機能が一緒になっている。意外と、待合機能を利用する人はずっと座っている。物販機能を利用する人は動いているため、滞ってしまうのではないか。

(佐藤委員)

- ・少し低い隔てがあり、別れているイメージをしている。

(木村委員長)

- ・待っている人と動く人を一緒にしてはいけないと思っている。分かれていた方が収益も上がる。情報を得る人は集中する傾向にある。確かににぎやかでいいが、待合機能は専用スペースにした方がよい。
- ・実は上越妙高駅ではこのような構造になっている。観光案内所の方と話をした際、案内看板を見る人は滞留している人のかき分けてこななければならない、非効率だ、と聞いた。このようなことを踏まえ、機能は分けたほうがよいと思う。

(本田副委員長)

- ・木村委員長の指すスペースは、この緑の「待合機能」部分だと思う。若い人が利用するのは、気軽に座るような、待合というよりもテーブルスペースのイメージだと思う。

(柏谷委員)

- ・木村委員長が危惧されているのが、緑の「待合機能」を無くし、テーブルスペースの待合だけならばまずいのではないか、ということだと思う。「待合機能」があったうえで、情報発信機能に座る所があるのならば、良いということだと思う。

(木村委員長)

- ・緑の「待合機能」があるならば良いと思う。階段があるからと、待合機能を情報発信機能側に移すということを危惧していた。

(本田副委員長)

- ・佐藤委員が仰っていたが、エレベーターと階段位置が分かれており、2階へ誘導するような配置になっていない。
- ・情報発信機能が広く取られているが、いまいちピンとこない。

(ドーコン 朝倉)

- ・バックヤードを確保するため、広く取られている。
- ・階段は南北2箇所配置しているが、南側の階段を北側に寄せると、階段の位置が偏ってしまう懸念がある。
- ・吹抜けに階段を設置する場合、駅前広場から改札に行くショートカットを階段で支障して

しまうことも考えられる。

(柏谷委員)

- ・吹抜けがあると、2階の空間を意識すると思う。また吹雪により駅舎で待機する時間が出てくることを思うと、空間が圧迫されるよりは、上が広いほうが良い。

(ドーコン 朝倉)

- ・維持管理費は町が単費で負担する事例が多い。吹抜けだと冷暖房費が掛かる。一方で、倶知安駅ではクライミングタワー作るという演出もあるかもしれない。運営の費用は町から出てくるのかも含め、議論いただきたい。

(佐藤委員)

- ・吹抜けに階段を配置するという案を撤回したい。図面右側にある階段をエレベーターに寄せた方が、コインロッカーの使い勝手も良い。2階にも行きやすくなると思う。

(倶知安町 西口主幹)

- ・物販機能の中の階段の位置は、仮に配置しているものになる。自由度を持たせていただければと考えている。

(木村委員長)

- ・吹抜けの議論について、空間を演出するという面でも必要だという意見、稼げるフロアにしてはという意見もある。どれほどの人がここを滞在空間として使うかは読めないが、そのためにも広くとった方が良いという意見もある。これらについて意見はあるか。

(吉田委員)

- ・稼ぐということを考えると、スタディスペースは設けてはいけないと思う。コワーキングスペースに吸収すべきではないか。空間の使い方として、一時滞在機能が2つに分かれているのはもったいない。

(斎藤委員)

- ・吹抜け側の壁は、窓が無い壁になるのか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・壁になる確率が高い。

(斎藤委員)

- ・壁になった時、1階の7mの幅だと、潤いが無さすぎるという気がしている。これを広げてどれくらいの収益が上がるのかというと、それほど大きく影響はないのではないかと。そうであれば、9ページのように座っている人達が吹抜けから眺望できる方が、滞在する方にも余裕をもたらすと思う。吹抜けはあった方が良いように思う。

(峠ヶ委員)

- ・エスカレーターも無く、スーツケースを持った人がどう2階に上がるのかと考えている。吹抜けが無くなると2階がどうなっているのかも見えない。2階に上がってもらう仕組みを作らなければいけない。前回までの案の階段部分に、吹抜けを設置することも考えられる。

(本田副委員長)

- ・今の案だと自由通路も吹抜けになると思う。

(木村委員長)

- ・因みに、飯山駅では吹抜けの上は滞在できない。カフェで滞在することになる。
(吉田委員)
- ・なぜあれほど贅沢な空間を整備することができたのか。
(木村委員長)
- ・そもそも、カフェが位置する場所は事務室の予定であったため、それほど人が滞留する機能は想定していなかった。ところが、思った以上に滞留することになり、人件費が稼げるくらいの利益がある。稼げるのであれば稼いだ方が良く思うが、それだけの機能を駅に求めるものではないので、そこは地域の皆様で議論していただきたい。
(峠ヶ委員)
- ・2階へは動線が悪く、カフェなどがあってもなかなか行かないかもしれない。階段を折り返しにすると、より2階がどうなっているかが分かり辛い。
(本田副委員長)
- ・結局前回のような案になるかもしれない。
(木村委員長)
- ・風除にしなければ暖房効率が変わってくる。
(ドーコン 朝倉)
- ・峠ヶ委員の意見のように、階段を吹抜けにして、自由通路から物販機能をシャットアウトする方が良いかもしれない。
(木村委員長)
- ・吹抜けの有無については意見が二分している。外気にさらされる考慮をした方が良くという意見、2階に誘導するための工夫が必要という意見。階段は目立つところにあるべきという意見は一致していると思う。
(柏谷委員)
- ・情報発信機能に手荷物一時預かり機能があるということは、荷物を持って上下するようなことはないのではないか。
(倶知安町 西口主幹)
- ・今後駅舎をデザインする業者と話を詰め、その中で今出た意見を入れ込み、どう配置していくかを定める。専門家、建築家も含めて進めていく必要があると思っている。
(木村委員長)
- ・情報発信機能については色々な事例を見て頂き、どのような事例が倶知安駅に合い、機能的で、マネタイズできるかということを議論していく必要がある。スケジュール的にはどのような状況か。
(倶知安町 西口主幹)
- ・年内にもう一度開催し、今年度は終了する。その後、都市施設のデザイン、基本計画の検討を進めていく。
(木村委員長)
- ・吹抜けの有無については大筋で決めておきたいということだと思う。次の委員会で決着がつくのか。

(本田副委員長)

- ・委員のみの勉強会は挟んだ方が良くと思う。

(木村委員長)

- ・次回の委員会については勉強会を行うのかも含め事務局と相談する。今日のところは、ある程度の成果が得られたということで終了したい。

以上